

令和4年度 生活介護 ローズマリー事業報告

I 重点目標

- 1 利用者1人1人の支援内容の見直し
- 2 1日当たりの利用者数の増加

[取組内容]

支援中に気づいたことや状態の変化を職員間で共有した

(例:歩行状態が悪くなった。食事中の姿勢や嚥下機能の低下により食事形態を見直した。器具の不具合がないか等)

支援に関する事は都度、会議を持ち改善を図った

嘱託医や外部専門職(理学療法士・言語聴覚士)と連携を密に取り、情報共有、アドバイスをもらった

感染症防止のため感染症対策を徹底し、活動を少人数に分けるなど工夫した

[結果]

高齢化や重度化が進んでいく中、日々の変化に気づき、その時点で一番適している支援が行えるように対応することを心がけた。今後も大きな課題としてあげられることを痛感した。また、介護保険への移行や入院などで利用者数は減少することとなった。

II 実績

登録人数 32名 (令和5年3月31日現在)

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男性	-	2名	2名	5名	9名
女性	-	1名	1名	6名	6名

週間通園状況

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
月曜日	0名	0名	3名	9名	10名
火曜日	0名	1名	3名	8名	10名
水曜日	0名	1名	2名	8名	9名
木曜日	0名	1名	3名	9名	10名
金曜日	0名	1名	3名	9名	11名

平均利用者数 17.62人 (19.54人)

平均支援区分 5.25 (5.19)

区分5, 6の割合 85.57% (84.82%)

()内は前年度実績

介護保険への移行に伴い退所、入院(服薬調整・リハビリ目的)、コロナ関連での休みなどで利用者数が減った。利用者の高齢化や重度化が進み、支援区分が上がった。

III サービス内容

- ・入浴支援

- ・排泄支援

オムツ交換、トイレ誘導の対象者が増加した

- ・食事支援

日々の状態で食事介助が必要な時や、食事形態を変更する必要があるため、臨機応変に対応した

- ・健康管理

看護師を中心に日々のバイタルチェックや少しの変化に気づき、家庭との連絡や、嘱託医との連携を図った

- ・口腔ケア

昼食後の仕上げの歯磨きを継続しているため、3月に行われた歯科検診時に歯科医よりきれいに磨けていると評価された。

- ・感染症対策

- ・軽作業(希望者) 室内作業2名 パン作業1名 パン納品1名

- ・施設内活動(創作活動・カラオケ・ボッチャ・ボウリング・風船バレー・リズムダンス・散歩・調理実習・誕生日会・ドライブ・自由活動など)

- ・防災対策(避難訓練の実施・火災や地震を想定)

- ・機能回復訓練(理学療法士による訓練・言語聴覚士による訓練)

理学療法士による機能訓練を行う利用者が増加した。歩行訓練など筋力維持に取り組んだ。言語聴覚士から、利用者の状態を見てもらい、食事の姿勢や嚥下の状況などアドバイスをもらった。また、嚥下機能維持のため口腔体操を実施している。

- ・歯科検診の実施(大分県口腔保健センター対応)

3月に大分県口腔保健センターによる歯科検診を実施した。

- ・支援学校の実習生の受け入れ